

学園だより

No54
令和3年3月

発行
広島県立広島学園
東広島市八本松町原 10844
電話 (082) 429-0351



バレーボールをとおして

すみれ寮 平木 瑞保

「ビー」試合終了のホイッスルが鳴り、私の目に熱いものがこみ上げ、零れ落ちそうになりました。

十月十六日（金）島根県にて第四十二回中国女子児童バレーボール大会が開催されました。広島学園は、昨年に続き優勝することができました。八月の時点で児童は五人。一人は入所二ヶ月にならない小学生、一人は入所間もない中学生。まだ大会が開催されるかどうか分からない状態でしたが、もし昨年と同時期に大会があるとして、児童五人の単独チームで正式出場するか、職員を交えてオープンチームで参加するか、この時点ではまだ決めかねていました。四月からバレーボールの練習を本格的に開始しましたが、まずは基礎体力作りや基礎のパス練習、サーブ、サーブレシーブ練習に多くの時間を費やしました。そのような基礎練習を中心とした日々の練習を積み

重ねながら、子供たちは大会が開催されるかどうかとても不安に思っているようでした。少しずつ個人のプレイが上達してくると、子供たちは試合をやりたいがります。大人を相手にしたミニ試合を行い、負けるととても悔しそうにしたり、時には涙を流す子もいます。私は子供たちに「負けたら悔しい」「勝ちたい」という思いはとても大事だけど、試合に勝つためには何が足りないのか、何が必要かを問いかけ、基礎基本が大切であることやチームとしてまとまりがあることが大切なことを伝えてきました。

九月中旬、日帰りで大会が開催されることになりました。この時点では児童五人で正式チームとして大会に参加できるレベルになっていたのですが、児童に正式チームでの参加を伝え、大会に向けてチームとしての総合練習に時間を多くとりました。今回は外部との練習試合を行うことができませんでしたが、大人対子供

チームで試合形式の練習を多く行い、本番を意識した練習をしていきました。また、試合には今持っている力を出し切ることはもちろん、大会には五人全員で参加すること、一人一人の力を足したら「五」であるが、チームとしてお互いが思いやり助け合うことで「十」にも「二十」にもなることを子供たちに話し、こうやってバレーボールができるのは併設校の先生方や学園の職員がたくさん練習に参加してくれていること、影でサポートしてくれている人がたくさんいるおかげであること、この状況が当たり前と思わず感謝の気持ち忘れてはいけないことを言い続けたので、チームメイトのミスや自分のミスにイライラしたり、黙ったまま次のプレイをしていた児童が、徐々にお互いに声を掛け合い、励まし合いながら取り組むことができるようになっていきました。

大会当日、選手も監督も緊張していましたが、どの児童も自分の持っている力を十二分に出し切り、劣勢になった時も大きく崩れることなく全員でフォローをし合って、素晴らしい試合をしました。優勝が決まった時、子供たちは涙を流しながら肩をたたきあって喜んでいました。

バレーボールは一人ではできません。プレイが上手な選手がいても、チームとしてのまとまりがなければ負けてしまうこともあります。たとえ勝つても心から喜べないかもしれません。バレーボールをとおして、お互いが助け合い、支え合い、思いやることや感謝の気持ちを学んでくれたのではないかと思います。そしてそれは、バレーボールのみならず全てのことに当てはまるということをおそらく子供たちに伝えていきたいと思っています。

学園行事

◆第二回進路講演会

「可能性は無限大」

株式会社オンド 総務部

人事課 森本様

「色んな人との出会いが、皆さんの可能性を広げてくれます。恐れずにチャレンジしていきましょう。」



小五 男子
今日、森本さんの話を聞き、心に残ったことがあります。一つ目は、森本さんの名前を「翔大」と書いて

「しよた」と読むことに驚きました。二つ目は、売上高が五八六億千二百万円もあり、グループの会社や海外の会社も合わせたらもつと多いと知り、「すごい会社だな」と思っています。三つ目は、森本さんが陸上部で選手として努力していたけど、大きなケガをしてしまい、サポーターとしてみんなを支え、全国大会に出場していたところがとてもすごいと思いました。僕も、挑戦することを頑張ろうと思いました。今は、新型コロナウイルスで仕事が大変だと思いますが、頑張ってください。

中一 男子

学んだ中で、従業員さんが一五二九名いると聞いて、とてもびっくりしました。また、会社の売上高が五八六億千二百万円と聞いて驚きました。一日に一億円ぐらい売り上げられているのは、たぶん他の仕事にはないと思いました。車の部品を作っている、一九四七年からはポルトナット。一九六三年からはプレス部品。一九八一年からは駆動系部品で、現在は自社開発の製品を作っていて、株式会社オンドさんの歴史はすごいと思いました。また、中学時代の話の中で、足をけがして部活をやめよ

うかと思っていた時には、悔しい思いをしたと思います。そんな時、仲間を声を掛けられて「心が変化した」と言うことを聞いて、僕も今取り組んでいる部活を頑張ろうと思いました。

◆中国女子児童バレーボール大会

今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、宿泊先での児童の交流会を取りやめ、日帰りでの大会となりました。正式チームとしての参加は三チームで、二チームはオープン参加でした。新型コロナウイルス感染症への防止対策をしっかりと行いながら大会が運営されました。島根県の関係者のみなさん、ありがとうございました。

(大会結果)

- 第一試合 対鳥取県 2対0
(①25・21 ②25・19)
第二試合 対岡山県 2対0
(①30・28 ②25・7)

広島学園は、選手は五名でしたが正式チームとして参加しました。全員が、サーブエースでポイントを取ったり、粘り強いプレーや素晴らしいプレーで、全勝での優勝をする

ことができました。昨年度に続き、二連覇を達成しました。児童は、礼儀やマナーでも優勝できるように取り組んでいました。



中一 女子

私はバレーボール大会で沢山のことを学びました。大会に行くまで、すごく緊張をしていました。四月から今日まで、練習してきたことが全て出し切れるか、すごく不安でした。また、チームの足手まといにならないかなど、不安に思っていました。そして大会会場に着くと、知らない人ばかりでした。いつもだと、対戦相手が分かっている状態で練習してきたため、相手チームがどんなプレーをするのかがわからず、緊張していました。開会式の後、5分間くらい練習してから試合になりました。私はとにかく、サーブ、レシーブ、アタックをきつちりとやろうと思って試合に臨みました。相手チームの強いサーブがレシーブできた時には、まさかレシーブが上手くできると思

っていなくて嬉しかったです。また、相手チームが一本で返してきたとき、いつもだと取れないと思ったたりしていたけど、全力で走り、そのボールを取りに行くことができました。そして私たちの得点につながりました。その時、先生たちに言われていた「諦めずにボールを取りに行く」という言葉の深い意味が分かりました。しかし、サーブ順になった時、私はミスをしてしまいました。その時、気持ち少し落ちそうになりましたが、チームメイトの言葉で気持ちを落とさずに頑張ることができました。支えてくれる仲間がいるから、私はここまで強くなれた、とその時感じました。また、今回のバレー大会とおして気づいたことが二つあります。一つ目は、バレー大会に参加することによって、仲間にいつも以上に感謝ができる。二つ目は、ボールが落ちそうになった時も、ずっと声を出すことは、決して無駄ではないと気づきました。そして最後に、今回のバレー大会とおして学んだことがあります。一つ目は、バレーボールは、心の面まで成長できるということです。技術面でも、成長がたくさんできました。しかし、心の面でしんどい時、辛い時も、仲間と協

力し合い、励まし合い、時にはぶつかり合ったけれど、バレーボールは一人ではできないし、仲間がいるからこその競争だと思えて思いました。そして今回は、ストレート勝ちで優勝することができました。沢山の先生方に支えてもらい、コロナ感染症の中で大会を開いて下さったことに感謝しています。大会に出ることで、私自身も成長できました。勝てたのは、皆様のおかげです。私がミスをしてしまった時も、全力でフォローして下さい、本当にいい思い出になりました。この経験を通して、人を信頼することは大切なことを学んだので、これからの生活でも人を信頼します。



◆中国地区駅伝・マラソン大会

鳥取県の伯耆町総合スポーツ公園で新型コロナウイルスの感染症対策をしながら、中国五県の駅伝・マラソン大会が開催されました。男子寮の児童十三名が大会に参加しました。(大会結果)

○マラソン小学生の部(全十一名)

五位、六位、八位

○マラソン中学生の部(全十六名)

六位、七位、九位、十二位、十四位

○駅伝の部 五区間(全七チーム)
四位

(監督より)



大会会場では、他県の児童や職員と会う度にあいさつができていました。競技では、どの児童も力を発揮し、ほとんどの児童がベストタイムを更新することができました。

中三 男子

八月から陸上クラブが始まりました。マラソン練習は、走るのが苦手なので嫌いでした。最初は、練習が嫌で、何かと理由みつけて練習に出ないこともありました。走ることに不安が強く、先生に相談していても「やりたくない」ということもありましたが、「やればできる」「走るしかない」などのアドバイスをもらって頑張ろうと思いました。それから、部活の一つ一つのことを頑張って取り組みました。練習での不安はあったけれど、努力して走りました。面会では、家族から「頑張ってほしい」と言われたので、辛い時も乗り越えることができました。それでも

体が辛い時には、ゆっくり自分のペースで最後まで走ることができました。先生方からアドバイスをもらったおかげで、やり切ることができました。そして、大会の前日にメンバー発表があり、僕はマラソンのメンバーに選ばれて嬉しかったです。苦手な練習を一つ一つ乗り越えて、やったかいがありました。頑張った良かったです。大会当日は、とても緊張しましたが、大会に行くことが楽しみでもありました。大会に参加することに不安はあったけれど、自分のことを考えて落ち着くことができました。本番では、「最後まで走り切れるのか」「順位はどうなるか」など色々考えて緊張していました。緊張しすぎて、立ったり座ったりして落ち着きませんでした。それでも、本番前には切り替えていました。マラソンの部が始まると、最初は岡山県の選手が一位で、その後ろが僕でした。一度は、岡山県の選手を抜いて一位になりました。しかし、レースの中盤を過ぎると、島根県や岡山県の選手に抜かされて、ゴールした時には六位でした。それでも、自分が苦手なマラソンを最後まで頑張って走ることができました。走り終わると「終わったな!」と、達成感が

ありました。でも、順位はもっと上を目指せたと思ったので、悔しかったです。十二月に園内・校内駅伝大会があるので、頑張ってタイムを上げて、少しでも上の順位を取ろうと思います。



◆文化活動発表会

(児童作文)

小五 男子

作文朗読の機会に、今までの自分のことを振り返りました。僕が学園に入所する前、僕は妹に対してイライラし、妹へ暴力行為をしてしまいました。僕の中で妹は、「お母さんを取られた。自分ばかり何かさせられる。怒られる。」という気持ちにさせられた存在でした。その時、イライラを全部妹にぶつけようと思っていました。それ以外にも、家で嘘をついてしまいました。そのため、児童相談所の一時保護所に入りました。広島学園への入所が決まり、広島学園を見学してみると、涙をこらえなければならぬほど怖かったです。その時は、本当に学園に入りたくなかったと思いましたが、僕は反

省すべき点があるため、入所することを決意しました。入所してから四日程度の個別の支援中には、「面倒だし、ここにいたくない。」という色々な気持ちがありました。僕は「ここから逃げたい。早く退園したい。」と、考えていました。だから、一か月もたたないうちに大きな反省になりました。そこでも、自分自身がしてしまった行動を素直に認めたくないという気持ちでいっぱい、なかなか認めることができませんでした。学園では、一ヶ月、三ヶ月、半年、一年と、だいたい三ヶ月ごとに節目の振り返りがあります。入所して変わってきた点は、勉強が好きになったことです。また、部活動も最後までやり抜くことができました。陸上の部活動では、二kmを十分で走れるようになりました。でも、九分で走れるように、これからも頑張っ

て取り組んでいきます。変わっていない点としては、気持ちをコントロールすることや、物の管理などができないことです。例えば、運動会の練習で、僕が気になったことを繰り返して実行委員に質問し、きちんと答えてくれないからとイライラし、実行委員に文句を言って反省になりました。そのため、これからはイライラした気持ちのコントロールができるようにしていきます。退園後にも目標があります。今までやっていた手伝いを続けて、それ以外の手伝いもできるようにして、家族を助けていきたいです。今まで以上に、家族の皆がいつも笑顔で生活できるようにしていきたいです。学校では、全部の教科が通知表で「よくできた」や「三」がもらえるように成績を上げていき、中学校受験ができるようにしていきたいです。考え方の面では、指示や注意に「違います。」などと自分勝手な判断をして反対の言葉を言わず、素直に受け止めていくようにしていきます。人付き合いの面では、人が話している中に割り込むのではなく、場やタイミングを計っていくことを気を付けます。そうすることで、良い友人関係を築きます。最後に、家族へ想いを伝えます。「今まで、迷惑をかけてごめんください。そして、いつも僕のことを支えてくれてありがとうございます。」



◆第三回進路講演会 「働くことの意義」



宮川化成工業株式会社 広島事業部
生産技術グループ 大久保様

*自分が好きなこと・やりたいことを探し続けて欲しい

*人の第一印象は十五秒で決まる

(見た目、声、話す内容)

*今をどのように過ごすか

・登山型：明確な目標を持ち、目標に向けて計画的に取り組む

・川下り型：目の前のことを懸命に取り組み、その中で、自分らしさを発見していく

中三 女子

この度は、お忙しい中、進路講演会を開いて下さり、ありがとうございます。今回のお話で、今は明確な目標を持ち、目標に向けて計画的に取り組んでいけばよい、という言葉が印象に残りました。私は、ファッションやメイクに興味があり美容師の資格を取りたいと思っています。国家試験を受けるには高校卒業の資格が必要なので、受験に向けて苦しい教材に取り組んで目標に少しずつ近づいていこうと思います。また、面接で緊張した時には深呼吸が役に立つと教えていただいたり、緊張して

いるほうが頑張りは伝わる、という言葉聞いて少し面接に対する不安がなくなりました。受験の際には教えていただいたことを思い出して乗り越えていこうと思います。



職員の異動

広島学園

- ・退職 半田 浩正 園長
- ・退職 穴迫 由佳子 主査
- ・松本 雅裕 主任
- ・転任 岡田 和子 園長
- ・もみじ小学校・中学校
- ・異動 村上 正志 校長
- ・転任 小島 弘之 校長

《ホームページ》

広島県のホームページの中に、「県立広島学園」のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載していますので、ぜひ、ご覧下さい。

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/sis/hiroshimagakuen/>)